

# 令和7年度 学校評価シート

〈学校経営方針の重点〉

1 確かな学力の向上(知) 2 豊かな人間性の育成(徳) 3 健やかな心と体の育成(体) 4 地域に根ざした学校づくりの推進

※評価 A(高度に達成) B(おおむね達成) C(達成するにはもう一歩) D(ほとんど未達成)

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策		分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
学力の向上	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	小規模特別認定校制度を生かしたきめ細かい指導を徹底し、指導方法の工夫と改善を図る。	生徒のよい点や可能性を見付け、伸ばす指導の工夫を行う。	A	・全職員がA・Bの自己評価をしており、工夫しながら生徒一人一人と向き合っていることがわかる。 ・少人数の環境のメリットが十分に活かされている。	・タブレットの活用では、生徒たちが主体的に取り組んでいることを見守りながら、経験を次につなげられるような「伴走」的な指導法のバリエーションを増やしたい。 ・オンライン学習やタブレットでの課題配信などで、個別の対応ができることを生徒にもさらに周知していく。	A	・使いこなしが進んでいる生徒とそうでない生徒がいると思うが、少人数の環境のメリットで、全生徒が高いレベルで習得できるよう指導願いたい。	・生徒のよさを引き出すために、生徒の見守りを強化し、経験を次のステップに繋げられるよう指導していく。 ・ほぼ全ての生徒に定着してきたオンライン学習をさらに生かし、生徒の様子を丁寧に見取り、全体への課題配信だけではなく、個別対応ができるように取り組む。
			生徒の主体的な学びを促すために、めあて、課題、まとめ、振り返りを適切に設定した授業を行う。	A	・どの授業でも「めあて」と「まとめ・自己の振り返り」の活動が定着しており、生徒が主体的に学習を進めるための環境を整えられている。	・特別活動分野においても、学習で身に付けた「自己調整力」を発揮して臨めるよう、生徒が自分たちで行事の課題を挙げて解決のために主体的に工夫する時間を確保していく。	A	・どの世界でも調整することは大切である。例えば、スポーツの試合の休憩時間で、前半を踏まえ課題を周知し、後半に反映させるような設定を授業に生かすことはとても良い。 ・めあて、まとめ、振り返りが定着することは素晴らしいです。	・主体的な学びを促すために、引き続き、各授業において、めあて・課題・まとめ・振り返りおよび、単元を通じた見直しについて、明確に提示することで、自己成長力を向上させる。 ・適切な評価計画に基づく授業改善推進プランを作成し、習得した自己調整力を学習や特別活動の場面において発揮させるよう指導する。
			粘り強く継続して学習する力を育むために、個に応じた指導の工夫を行いながら、基礎的・基本的内容が定着するように繰り返し指導する。	A	・数学では今年度も習熟度別学習に取り組み、同じ学習内容でも、課題へのアプローチや基礎・基本の定着に一層の工夫を凝らすことができた。 ・板書の写真を撮って自宅でノートをまとめる学習など、様々な方法で学習の定着を図っている。	・令和8年度はオンライン学習が実技系教科の学習内容も網羅する予定。実技教科の知識分野での学習に効果的に活用していく。	A	・来年度、オンライン学習が実技系教科にも網羅され、それがプラスであるならば更なる推進をしてほしい。	・生徒の粘り強く継続して学習する力を育むために、生徒自身が短期的目標と長期的目標を設定し、達成するための手立てや計画等を考える場を設ける。 ・基礎・基本の定着のために、来年度より、全教科でできるオンライン学習を活用し、生徒が主体的に学習をする環境がづくり、さらに、情報を保護者に伝えることで家庭の協力も促す。
			個別最適な学びを充実させるために一人1台の端末を活用したり、課題設定に工夫をしたり、オンライン学習を活用したりする。	A	・5教科ではオンライン学習を反転学習に用いるように指導しており、基礎・基本の定着を図ることができた。 ・オンライン学習を活用することで、生徒が、自ら必要としている学習内容を手に入れることができている。 ・9割近い保護者から、家庭でのICT活用について肯定的な評価がある。	・ICTに頼りすぎずに、生徒が個に応じた学習を進める方法を指導していく。 ・家庭でのICT機器の使い方について、視力維持など保健の面からの指導を、保健委員の生徒が主体となって啓発していく。	A	・情報技術の更なる推進を。	・生徒の個別最適な学びを充実させるために、効果的にICT機器やオンライン学習を有効活用しつつ、生徒の見取りを強化し、授業においても個別最適な指導方法を実現する。 ・生徒が学習を通して達成感が得られるようにするために、課題設定に工夫を凝らすとともに、生徒が主体的に学習目標を設定し、自分に合った学習方法を見付けられるように支援する。
			協働的な学びを充実させるために、生徒が自分の考えを表現したり、他と比べたりしながら、自分の考えを再構築する場面を設定する。	A	・各教科や道徳、総合的な学習での探究学習での話し合いが習慣化し、話し合いで臆することなく表現できる生徒がほとんどである。 ・一方で、協働学習を指導するノウハウの不足感が教員にはあるので、指導方法について研修することが求められる。	・引き続き、生徒の精神的安全保障を高い次元で保ち、一人一人が自分の言葉で自身の想いを伝えることができる学校づくりを行う。 ・職員研修では、協働的な学習や特活の指導方法についての機会を設定する。	A	・職員研修までして協働学習を指導してくれることはとても素晴らしい。	・協働的な学びを充実させるために、校内研修等を重ね、全ての活動を通して、全職員が共通意識をもって指導する。 ・協働的な学びを促進させるために、小規模校の特性を生かし、精神的安定性を保つことで、個々の良さを発揮しながら集団と個が成長する環境を構築する。
			生徒の自ら未来を切り拓く力を育むために、総合的な学習の時間において探究活動を推進する。	A	・今年度は、4月から全校が異学年のグループに分かれて行う学習形態「タテたんを、毎月1～2回行った。ほとんどの職員が探究活動を推進することの意義を理解して指導に当たることができた。 ・これまでの学年行事を改革していく必要や、生徒一人一人の興味関心に寄り添って各探究学習の伴走をしていく難しさがある。	・個別の探究学習においては、テーマ設定の指導に工夫をする。 ・1年生は探究の入り口なので、上級生とともに探究を進めるが、年度末の発表会までの指導計画を、より精査して改善を図る。	A	・少人数だからできると思われる異学年グループ学習は成長期にある生徒にとって色々なことが見えてとても良いと思う。 ・指導計画を精査し改善を図ることは大切です。	・生徒の自ら未来を切り拓く力を育むために、外部人材を活用しつつ探究活動の更なる充実を図る。また、異学年交流をすることで、違った視点での見方・考え方を共有させる。さらに、探究の課題設定や課題解決方法を、生徒自身に組み立てさせることで、セルフマネジメント力、プランニング力を向上させる。
			家庭学習を充実させるために、学習相談週間等を活用し、学習方法を適切に示すとともに、家庭に協力を仰ぎ学習習慣の確立を図る。	A	・学習相談週間では事前に質問を集約して、授業での指導計画にも生徒の疑問を反映できるようにしてきた。 ・宿題はやってくるので、自主的に家庭でも学力の向上を目指すように働きかけている。	・定期考査毎の学習計画表では、家庭にも学習習慣への定着への協力を仰ぐ。 ・オンライン学習の活用や、自主的な学習の具体的な内容を知らせていくことで、学力の向上による達成感を味わわせるような指導の工夫が必要。	A	・家庭学習は、生徒に差が出るものだと思うので、学習方法を適切に示すことはとても良いと思う。	・生徒の家庭学習を充実させるために、学習計画表を活用し経過を見取るとともに、家庭からの協力を仰げるような工夫をすることで、学習習慣の定着を図る。 ・生徒が家庭学習の時間を確保するために、配信によるオンライン学習を有効活用し、常に教材がある状態を確保する。
豊かな人間性	互いの人格を尊重した人権教育を推進し、生徒の社会性の育成	いのちを大切にすることの教育を推進し、いじめの根絶を目指して、思いやり、認め合い、支え合う指導を充実させる。	いのちを大切にすることの教育を充実させるために、現在の課題について広い視野からの報道等を活用したり、様々な体験をさせたりしながら、道徳科の指導の工夫をする。	A	・全職員が信念をもって指導に当たり、生徒の自尊心の向上に努めている。 ・道徳は、教科書を使った授業だけではなく、社会問題の活用や体験的な学習とつなげて学ぶ機会となるように工夫している。	・生徒達自身が、精神的安全保障を十分に感じており、思春期にしては他者への共感や理解する力が非常に高い。引き続き、自他を愛する心を育み、多様性への意識を啓発していく。 ・引き続き、体験的な機会や時事問題、報道を活用した指導を工夫していく。	A	・今、世界で戦争、差別などがあるので、人権教育は大切であり、最大限の指導を望みます。	・生徒のいのちを大切にすることの教育を育むために、道徳科の授業の充実を図るとともに、引き続き生徒が精神的に安心できる学校作りを進める。また、身近な時事問題や報道等も活用し、自分事として捉えさせ、自他を愛する心を育てる。
			いじめの未然防止・早期発見・解決を図るために、学校いじめ防止基本法に則り、生徒会の啓発活動を推進するとともに、いじめアンケート等を活用し、生徒の心に寄り添う。	A	・各学年で担任と毎日やり取りしているノートがあり、さらにスクールカウンセラーと面談しやすい機会を設定し、濃やかに生徒の情報を共有している。 ・年4回、アンケートを実施し、毎週いじめ対策委員会を開催し、些細な変化も共有し、活用している。	・引き続き、職員間での情報共有を緊密に行い、未然防止や早期発見につとめる。 ・成木小学校児童会との連携や、生徒会の活動、朝礼での講話を通して、心の育成に努める。	A	・職員間の情報共有を今後も大切にしてください。	・生徒のいじめの未然防止・早期発見・解決を図るために、引き続き、生徒の様子を丁寧に見取りながら日々の情報交換を緊密に行うとともに、いじめアンケート等を活用し、生徒の心に寄り添うことで組織的に未然防止や早期発見に努める。また、日常から、生徒の心に寄り添う指導を継続する。
			自他を大切にしてお互いを思いやり、支え合う心を育むために、人権教育を推進するとともに、障害者理解等の体験的な学習を行う。	A	・1年時の福祉体験、2年時の聴覚障害に学ぶ授業、全校でのがん教室やパラスリートと対面して学ぶ、自衛隊員を招いての防災訓練で命の大切さを学ぶなど、多岐にわたる体験的な機会や、人権について学ぶことができた。	・校舎施設の設計が古く、バリアフリーではないところが多いのでゲストティーチャーの選定に制限が出てしまう。毎年、青梅市と校舎の修繕について協議している。 ・体験したことを、自分事としてとらえ、「誰一人取り残さない社会の一員である」という自覚を育む。	A	・各教室の配置がわかりにくい。	・生徒が自他を大切にしてお互いを思いやり、支え合う心を育むために、体験学習や実際に障害のある方々と触れ合う機会を定期的に設定し、多様性を認め合う心を育み、相手の立場になって考えることができるような指導を継続する。 ・各教室の配置については、校内見取り図を目立つところに掲示する等の工夫をする。

健やかな心と体	心身ともに健康でたくましい生徒の育成	心体の健康を増進させるとともに、すべての生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進する。	心と体の健康を守る態度を養うために、正しい知識を習得させ、基本的な生活習慣を確立させるとともに、いつでも相談できる環境を整える。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の保健委員会が、月ごとにテーマを決めて健康面への啓発ポスターを自ら作成し掲示している。</li> <li>家庭と子供の支援、不登校巡回支援員、スクールカウンセラーなどの配置が恵まれており、相談しやすい環境を用意することができた。</li> <li>家庭の協力もあり、ほとんどの生徒が朝ごはんを食べて登校できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの活用時間の制限は設定されている。スマートフォン等の個人が所有している端末の使用については、各家庭に約束を決めるよう促していく。</li> <li>学級での健康への呼びかけ、給食での食育、保健体育科での授業、養護教諭からの啓発や学期ごとの身体計測を引き続き行うことで、自らの心身を健康に保とうとする意識を育む。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>心と体の健康を守ることは一番大切で、命・健康あっての中学生生活なので、心も体も健康であってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の心と体の健康を守る態度を養うために、生徒の主体的な活動として保健委員会から生徒に呼びかけ、啓発活動を継続するとともに、各家庭にも電子ツール使用の際のルール作りを促していく。</li> <li>生徒に寄り添い、生徒への声かけを日常的に行い、いつでもどの先生にでも話しかけやすい雰囲気を作りたい。</li> </ul>
			生徒の社会性を育むために、規範意識の醸成、あいさつの励行、礼儀作法の徹底を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からも、来校時の挨拶について高く評価されている。</li> <li>授業を始め、休み時間や部活動でも、全職員が好ましい礼儀作法を学ぶ場との見解をもって生徒と接している。</li> <li>生徒会本部役員による毎週のあいさつ運動でも、全生徒が明朗快活に取り組むことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>礼儀作法を身に付けさせることで自律を促し、学校外でも場に応じた振る舞いができる意識を育む。</li> <li>挨拶活動を継続し、挨拶から始まるコミュニケーションを意識づけることで、社会の一員としての意識を醸成していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の落ち着いた雰囲気が感じられる。</li> <li>たまに七中に行くと、生徒から「こんにちは」などと挨拶をしてもらいます。それだけで良い気持ちになります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の社会性を育むために、生徒自身で日常生活や行事の決まりやを見直させることで社会の一員としての自覚を促すとともに、生徒が主体的に規範意識を高めるような環境をつくる。また、教職員全員で積極的に挨拶をし、社会の一員として生徒の模範となるよう行動する。</li> </ul>
			不登校生徒と家庭の支援を組織的に行うために、生徒に寄り添う指導を継続しながら外部機関と連携をしたり、家庭と子供の支援員を活用したりする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校支援員や子供と家庭の支援員の配置に加え、施設整備を進められたので、授業の教室以外でも生徒が安心して過ごす場所を複数用意することができた。</li> <li>年度初めには数名いた1か月以上不登校の生徒が、それぞれ不定期にはあるが登校するようになっていく。</li> <li>タブレットを活用して、学級の様子を伝えたり個別連絡を取り合うようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校支援室・教育相談室・子ども家庭支援センターと定期的に情報交換し、組織的な連携を継続する。</li> <li>今後も、生徒個人の状況に応じた関りを絶やさず、社会との窓口の一つとなるよう努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模特認校のメリットを生かして取り組んでいただきたい。</li> <li>不登校生徒が減少しているのは良い方向になっている。毎年生徒は入れ替わるので、常に取り組みをしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校生徒と家庭の支援を組織的に行うために、登校支援や巡回支援の職員と連携し、各家庭や生徒との関りを密にすることで、全生徒の居場所づくりをし、できる限り個々の生徒と家庭が望む支援を継続する。</li> </ul>
			生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進するために、生徒会活動等において生徒の主体的な活動や行事等を運営することを推奨する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会主体による、各専門委員会や生徒朝礼の運営のほか、生徒会レクや全校交流給食が定期開催されるようになり、生徒の主体性がさらに高まった。</li> <li>体育行事、文化行事においても実行委員生徒が中心となって生徒たち自らが考え工夫し達成する行事となってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会組織が、伝統を受け継ぎつつも自ら工夫した企画を提案できるように伴走支援する。</li> <li>どのような行事も、生徒たちにとっての達成感や満足感が満たされるように、企画運営していく。</li> <li>少人数のため、ひとりの生徒が担当する役割や係当番の活動が多くなりすぎないように、個に応じてバランスを取りながら指導していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽会を見聞させていただき、演奏、歌唱とも、生徒一人一人の真剣さが感じられた。</li> <li>少人数だからこそできている取り組みを、引き続き行ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進するために、生徒が主体的に活動できる場面を多く設定し、生徒の意見を尊重しながら支援をすることで、向上心を促し大きな達成感が得られるよう努める。</li> <li>生徒にとって魅力ある学校づくりを推進できるように、小規模の特性を生かし、引き続き生徒の視点から学校改善を図る。</li> </ul>
地域に根ざす学校	地域に根ざし、地域から信頼される学校の推進	学校を地域に開き、地域の人材を活用しながら教育活動の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に学校だよりを発行し、学級だよりやクラスルームでは保護者宛てにより詳しい様子を発信することができた。</li> <li>来校した保護者や電話への対応について、丁寧であると感じてもらっている。</li> <li>ホームページでの発信をさらに積極的にと望まれているが、個人情報保護の観点から難しい面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開や道徳地区公開講座、セーフティ教室、体育大会、音楽会と地域一般にも公開し、次年度以降の入学希望児童が見学することができた。来年度も学校公開の情報を、青梅の各小学校に案内していく。</li> <li>マラソン大会を地域とともに運営することができ、多大な応援を地域の方々からいただき感謝している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>マラソン大会終了後、テントの片付け等を、生徒がすすんで行ったことに驚いた。</li> <li>学校関係者も地域愛があり、七中にも良い大人になってもらいたいと思っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の学校への関心を高めるために、行事等の学校公開を積極的に行うとともに、生徒を地域行事積極的に参加させ、地域の一員としての自覚を促す。</li> <li>学校だより、学年だよりは個人情報に配慮しつつ、できる限り電子配信等を行う。また、教員の働き方改革やペーパーレス化を図りながらも、地域・保護者とのつながりを大切にしたい。</li> </ul>	
		地域とともに、安心安全な学校づくりを推進するために、交通安全教室や成木の特性を生かした森林体験やホタル学習等、地域人材・資源を活用して、特色ある教育活動を推進する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室や、多岐にわたる想定避難訓練、定期的な施設点検や環境整備を行い、ハード面・ソフト面共に安心安全な環境づくりに務めることができた。</li> <li>林業体験、ホタル学習など、七中ならではの体験的な教育活動に加えて、コミュニティスクールの方に茶道教室を開催していただき、生徒にとっての貴重な体験となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動として地域と関わる生徒が増え、成木地区文化祭では多くの生徒が地域の方と関わることができた。次年度も地域に開かれた特色のある活動を推進する。</li> <li>コミュニティスクール運営委員会と連携し、地域人材の活用をさらに推進する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿をたまに見ると、「大きくなったな」と目が行きます。今後も推進してほしいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域とともに、安心安全な学校づくりを推進するために、ボランティア活動を推奨することで、地域に根ざす生徒を育成し地域の方々や知り合える場面づくりをする。また、地域人材を招き、体験教室等を行うことで、更なる地域愛の醸成に繋げる。</li> </ul>	
その他重点	特別支援教育の推進	生徒一人一人の特性を理解した指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門機関との連携が定着し、研修会や校内委員会の情報発信から、生徒の特性などへの理解が深まり、毎週の教育相談部会では、特性がある生徒への個別の手立てについて継続して協議し、支援方法を工夫することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラーや巡回指導教員からの専門的なアドバイスを、全職員が教科指導や個別指導で展開させる指導の工夫を図る。</li> <li>次年度も、様々な特性を理解するための研修会や、在籍している生徒をより深く幅広く理解するための研修の機会を設ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模特認校のメリットを生かして取り組んでいただきたい。</li> <li>七中生には対象となる生徒はいないかもしれないが、在校生が知識をもち、理解することが大切。</li> <li>先生方も忙しいと思いますが、幅広く理解することの大切さを今後もお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の特性を理解した指導を行うために、スクールカウンセラーや支援員との連携を密にして、個に応じた具体的な教育活動を考え、組織的に支援を実践していく。</li> <li>特別支援教育やカウンセリングについて、専門的な視点から研修会を行い、教員の指導力の向上を図る。</li> </ul>	
		学校における働き方改革の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムやICT機器等を活用し、校務改善を図る</li> <li>SSS等の支援員を活用し、生徒と向き合う時間を確保する。</li> <li>校務を整理し、在校時間を適正にする意識を高めるとともに、定時退勤推奨日を積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールサポートスタッフやICT支援員との連携により、様々な諸事を任せることができ、生徒と向き合う時間を増やすことができた。</li> <li>ICT機器の新たな活用について、使いこなすまでがやや負担であるが、慣れてくるとペーパーレスを推進したり生徒との個別対応が密になったりしている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は働き方改革が日本中で言われている。大変なことだと思いますが、色々な知識を集め、効率的な業務ができるようがんばってください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校における働き方改革の推進させるために、校務を整理し、分担等を見直し、校務支援システムを活用して、在校時間を適正にする意識を高めさせることで、主体的にライフワークバランスを整えられるようになる。</li> <li>スクールサポートスタッフや家庭と子供の支援員、部活動指導員等と連携し、校務改善をさらに推進させる。</li> </ul>	